

～S.T.A ドリブルスクール開校への想い～

■保護者様のお悩みを解決します

保護者様がもし、「お子様が試合で活躍できない」「サッカーがなかなか上達しない」「所属しているチームでは個人技術を教えてくれない」等のお悩みをお持ちでしたら、ぜひSTAドリブルスクールにお任せ下さい。

長年の経験から導きだした子どもたちが本当に上達したメニューを実践しながら、さらに良い指導方法を追求し、スクール生全員が上達するために本気で全力でご指導させていただきます。

■現代のサッカーは「ドリブルが主流」

私自身子どもが4人いまして中学3年生の長男（コラソン千葉所属）と小学3年生の次女（アミーズFC所属）はサッカーをやっています。

土日は子どもの送り迎えもかねて色々なサッカーチームやサッカースクールを見てきました。長年サッカーを経験した視点から現在の子どもたちを見て感じたことは「ドリブルで勝負する選手が少ない」ことでした。

確かに、一昔前でしたらパスサッカーが主流でボールを正確に蹴ることが世間でも大きく取り上げられていて、日本代表でも中盤でパスができる中田英寿選手、遠藤保仁選手、中村憲剛選手などが活躍していました。

しかし、現在では世界を見てもトップクラスの選手は「ドリブルで勝負できる選手」です。日本代表でも三苫選手、久保選手、堂安選手など中盤の選手はドリブルが得意な選手が活躍しています。厳密に言いますと「ドリブルで勝負できるのは当たり前」でその上でパスが上手かったり、動き出しが良かったり、足が速かったりという選手がトップクラスの選手になっています。私の考えですが、ドリブルが出来ないと日本のトップクラスで活躍するのは難しいということです。

■現在の育成年代の指導方法に想うこと

このようにサッカー自体がどんどん変化している中で、まだ育成年代（小学生・中学生）において「チームサッカー」というくくりで個人の技術練習をおろそかにしているチームがとても多く、また、技術練習をしていても目的が曖昧なコーンドリブル練習や正しい動き方を教えずにボールの扱い方だけ教えて練習しているチームが多くあります。

そうしたチームの選手は試合でもボールが来たらとりあえずどこかに蹴ってしまったり、目の前に敵がいたら焦ってしまったり、バックパスを多用することが非常に多く見受けられます。

前提として、前に蹴ることやバックパスが必ずしもいけないということではないですが、育

成年代から目の前の相手から逃げてパスばかりですとそのクセが付いてなかなか直すのが難しいことがよくあります。

逆にボールを持ったらまずは相手とドリブルで勝負するクセを付けておけば、プレーの選択肢が増えて余裕を持ってプレーできるようになります。

そのためには育成年代では日頃からドリブル技術を磨いてドリブルで勝負できる技術を身に付ける環境があることがとても大事です。高校年代になってからでも遅くはないかもしれませんが、育成年代に技術練習をきっちりやってドリブルで勝負してきた選手とは雲泥の差があります。

■S.T.A ドリブルスクールでの指導理念

そのような思いから S.T.A ドリブルスクールでは個人のドリブル技術の上達にとことんこだわって「ドリブルで活躍できる選手」の育成を目指しています。

技術的なことはもちろんですが体の動かし方や常に試合状況を想定した練習を実践しています。指導する時も出来る限り分かりやすく丁寧に教えることを心がけ、選手が理解した上で練習することを大事にしています。私が考える上達するプロセスは、

ドリブル技術が身に付く→試合でボールがきても焦らなくなる→気持ちに余裕が生まれる
→目の前の相手と勝負する→成功したら自信がつく

そのためには本スクールでは対人練習や最後の試合の際には取られてもいいからドリブルで勝負することを徹底して、ドリブルで勝負する経験を多く作っています。そのような経験をすることにより、ドリブル技術を上達させて試合で活躍できる選手になれるよう徹底指導しています。

■コーチ紹介

名前 曾我 澄彦（そが すみひこ）

生年月日 1977年11月9日生まれ

千葉市生まれ千葉市育ち

4児の父親

サッカーは小学1年生の時に「さつきが丘FC」で始めて小学4年生の時に千葉県大会優勝しました。それから引っ越しもあり「にれのき台FC」に所属して朝日ヶ丘中学校に進学して中学2年生の時に3年生の大会に出場して千葉県大会3位になりました。

高校では市立稲毛高校（現 稲毛国際高校）に進学して部活動でサッカーをしました。

その後大学でもサッカーを続けて現在も千葉県シニアリーグに所属して活動しています。

よろしくお願ひ致します。

S.T.A ドリブルスクール 代表 曾我 澄彦